



## 英語×クリエイティブの分野を目指して

幼少期から絵を描くことや映画を観ることが好きでした。英語が得意だったので、海外でクリエイティブな仕事に就きたいと考えました。高校進学の際に地元である茨城県高萩市を離れて、祖母が住む神奈川の英語に特化した高校に進学しました。周りは海外の大学や、国内の英語に特化した大学への進学を希望する人が大半でした。英語のリスニングは得意でしたが、スピーキングが苦手であることに気がきました。英語で勝負するより、違うジャンルで自分が輝ける場所を探そうと思いました。

## 自分の考えや立場を意識するトレーニング

英語ともう一方で興味関心のあった美術分野の進路を考えました。美大や芸大はデッサンが必須です。絵を描くことは得意でしたが、画塾に通っていなかったことへの不安がありました。経済状況なども考え、国立大学で美術を学べる大学を探し、小論文と面接で勝負できる富山大学芸術文化学部を受験することにしました。高校では社会的な話やディベートの機会が多く、常に自分の立場や考えを認識するような環境でした。小論文と面接では、枠にはまったことではなく、自分の考えを述べられたことが評価につながったかもしれません。

## 本当にやりたいことと向き合う時間

入学当初は教養の授業が多いので、やりたいことをできないもどかしさと同時に、多様な分野のことを学べる楽しさを感じました。2年次からは美術・工芸分野を希望していました。3年次に金工・漆・デザインの授業を履修しました。いずれも時間や体力を要する部分があります。ひとつひとつ丁寧にやりたい気持ちに反して、できないことがストレスになりました。欲張って授業を取りすぎてしまいました。専門を何にしようかと迷う中で、高校生の時から興味のあったオカルト分野の制作をしてみようと考えました。

## メディアアートで開花

大学祭でホラーアトラクションを出展しました。動画制作を行い、体験型のアトラクションに仕上げました。思いのほか反響があり、メディアアートの分野に楽しさと手ごたえを感じました。西島治樹教授の研究室で、現在は卒業制作でパフォーマンスアートを進めています。活動自体を映像として残し、制作物とする予定です。今年の秋には、「富大生動画コンテスト」に応募しました。過去の受賞作品を見て、「きっと大学のPRや強みを表現した方が評価されるだろう」と感じたものの、私は自分の表現したいものにこだわることにしました。結果はアイデア賞を受賞することが出来ました。純粹に自分のやりたいことを表現して評価されることに喜びを感じました。明確な目的やベクトルが定まらないからこそ、視野が広がり、迷うこともできました。この空気感だからこそ出来ることがあると感じています。



## お世話になった高校の先生へ

当時はあまり素直に助けを求めることができなかったけれど、富山大学に合格したことを報告したときに涙ぐんで喜んでくださって、本当に生徒一人一人のことを考えてくださっているんだと思い、大変嬉しかったです。先生の情熱的な姿勢や考え方の影響を受けたことで、今の自分がいると思っています。ありがとうございました。

取材日：2025年12月10日